



Webデザイン実習3B

2019/6/24

Kazuma Sekiguchi

class@cieds.jp

クラスの適用、削除

- 予めCSSに作成したクラスを適用することが可能

```
$(“ターゲット”).addClass(クラス名);//指定したクラスをターゲットに適用する  
$(“ターゲット”).removeClass(クラス名);//指定したクラスをターゲットから削除する
```

- クラス名は、「.」を抜いて指定を行う
- クラスで複数のスタイルを定義しておき、一気に適用できるため、良く利用される

スクロールしたらふわっと表示させる

- 下からOpacity値を変えて、不透明にしながら表示していくことで、変化させつつ表示することが可能
 - スクロールしたときにどこの位置で表示（動き）を開始するかが肝
- 表現部分はCSSを利用する
 - transitionを利用して、アニメーションするように設定しておく
 - JSの機能でCSSを付与しておく
 - 表示する状態になった段階でCSSを変化させる→transitionが機能してアニメーションが生じるようになる
- CSSアニメーションの方がJSよりも遥かに高速

位置をずらす

- transformのtranslateXやYを使うことで、移動させることが可能
 - left値などでも可能だが、translateXやtranslateYを使うことで、現在座標を基準とした動きをすることができる
 - left,topは絶対座標を指定する必要があるため、動かすだけなら面倒とも言える
 - translateXやtranslateYではマイナス値も設定できるため、任意の位置に動かすことができる

位置をずらす

- transitionでは動かすまでの時間も設定可能
 - アニメーションの時間、アニメーションまでの時間、アニメーションで利用する動きなども設定可能

値	説明
ease(初期値)	開始時と終了時が緩やかに変化する
linear	開始から終了まで一定に変化する
ease-in	開始時は緩やかに変化し、終了時に近づくと早く変化する
ease-out	開始時は早く変化し、終了時は緩やかに変化する
ease-in-out	開始時と終了時は、かなり緩やかに変化する
step-start	変化の開始時点で終了状態に変化する
step-end	開始時に変化せず、終了時に変化が完了した状態になる
steps(正数, start または end)	指定した正数の段階で変化する。start を指定すると、アニメーション開始時から変化し、end を指定すると、アニメーション終了時に変化する。
cubic-bezier(x軸の値, y軸の値, x軸の値, y軸の値)	変化の度合いを3次ベジェ曲線で指定する

画面外からの移動

- 画面外からスライドインしてくる表現もあり得る
 - 画面外に要素を配置すると横スクロールが発生する（ウザい）
 - 画面外にある要素をスライドインしてくると、スクロールが動く（更にウザい）
- 横スクロールを解除しておく必要がある
- スクロールはoverflow:hiddenで消すことが可能
 - overflow:hiddenは指定されたサイズの領域よりも外側にある要素をどう処理するか、という指定
 - 通常は、領域を拡大して、表示するように動くため、スクロールが生じる

画面外からの移動

- 横スクロールの削除
 - 横スクロールを消すためには、`overflow:hidden`を使うが、X軸Y軸両方とも消えることに注意
 - `overflow-x:hidden,overflow-y:hidden`もあるが、IE専用プロパティであるため、普通は利用しない
 - `body`タグに`overflow:hidden`を使うとスクロールバーが消えてしまうため、子要素（`main`など）に指定して、対応する

jQueryのeach

- `$("").each(function() { //処理内容 });`
を使うことで、複数の要素に該当した場合に該当する全ての要素に対して同一の処理を行うことが可能
- ターゲットにclassを指定し、それぞれの要素を一気に処理するときなどに便利